

2017 CES ハイエンドオーディオレポート

編集委員 / パナソニック㈱

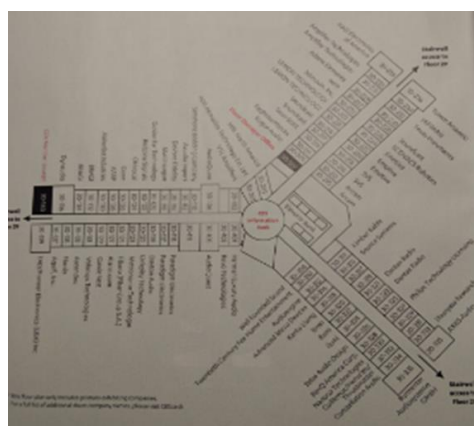
春井 正徳

50 回目の節目となる CES が今年もラスベガスで 1 月 5 日～8 日にかけて開催された。ハイエンドオーディオが展示された Venetian Hotel を中心にレポートさせていただく。本来だと現場を見てきた者がレポートすべきところだが、弊社から出張した者で一通り全てを廻れた者がおらず、編集委員の筆者が出張者の社内レポートをかき集め再編集した「見てきたようなレポート」であることをご了承願いたい。各々が特に気になった展示のレポートのまとめになっている

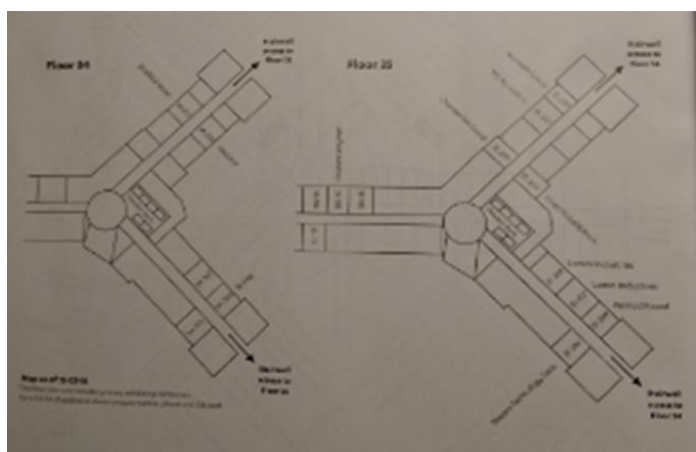
今年の Venetian Hotel は SONY、Boulder、Jeff Rowland、Dan Dagostino 等常連だった何社が本会場の Las Vegas Convention Center(LVCC)のみの出展にしたりしてブースの数が減少し、Venetian Hotel に出展した会社も部屋代の高い 34-35 階を避けて、幾分リーズナブルな 29-30 階に集中する傾向が見られた。ブランド名までは読み取れないが下のフロアマップの写真で密度を感じていただきたい。



29 階



30 階



34 階～35 階

そんな中でも中堅メーカーの活躍が目立っていた。印象に残った幾つかのブランドを紹介していく。

MOON by Simaudio Ltd.

カナダのブランドが今年の CES で最大のモノパワーアンプを展示していた。888W/ch。"888"は製品スペックであると同時に製品品番になっている。下の写真では見にくいですが、壁の表示に"888 Lucky Watts"とかかれており、最初はどういう単位かわからず悩んだが、カジノの街ラスベガスのスロットマシンをイメージした単なる洒落だったらしい。音デモは控えめな音量なので、大音量時のパフォーマンスを確認できなかったのは残念。



888 Lucky (?) Watts



350,000 μ F 以上の電解コンデンサが並ぶ



Evolution series

ELAC

Jeff、TAD 等に居られたアンドリュー・ジョーンズ氏が ELAC 移籍後デザインした第 2 弾となるスピーカーシリーズを発表。第 1 弾がエントリークラスだったので、今回の上位クラスは注目を集めていた。



トールボーイ \$5,000 (ペア)
 ブックシェルフ \$2,500(ペア)
 センター \$2,000

デジタル系では Roon フル対応 Music Server の新製品のプロトタイプを展示。1 年間の Roon 利用料金込みで\$2,000 の予定。現行製品の DS-S101-G は機能限定の Roon Essential 対応で約 \$1,100。



Roon 対応 Music Server
 左：新製品のプロトタイプ
 右：現行モデル DS-S101-G



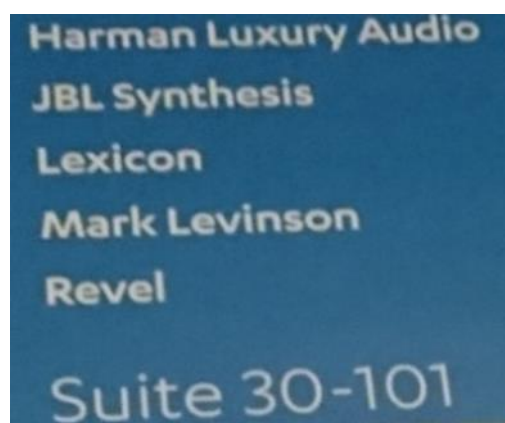
Mark Levinson by HARMAN

今年の Venetian Hotel で一番の話題になっていたと思われるのが、「Mark Levinson がこの時期にアナログプレーヤに初めて参入してきた」というニュース。ベルトドライブ式で、ヘッドシェラー体型のトーンアームは 3D プリンタで成形されている。2017 年春以降に USD10,000 で発売の予定。



HARMAN by SAMSUNG

昨年 11 月に HARMAN が SANSUNG に買収される、というビッグニュースが流れて、まだ記憶に新しいが、Venetian Hotel ではなく、本会場の LVCC の SAMSUNG のブースでは HARMAN 傘下の一連のブランドがお披露目されていた。上の Mark Levinson を含めて、HARMAN のブースは Venetian Hotel に健在。



Monitor Audio

こちらも昨年暮れに、Monitor Audio が Roksan を買収したというニュースが流れたが、今年は合同展示になっていた。



Clear Audio

フラッグシッププレーヤーと Phono EQ。Phono EQ は別筐体電源へのアップグレードと電池駆動の商品が用意されている。充電式で 10 時間の使用が可能。



Naim Audio

中級アンプシリーズの Uniti のデザインを一新し、どちらかと言うと、よりリーズナブルな価格帯の Muso のデザインを踏襲したデジタルオーディオプレーヤーを内蔵した 3 種類のアンプを展開(各 USD3,200/USD6,000/USD7,500)。周りライティングの光り方が、かなり高級感があり、フロントのディスプレイも iPhone の Retina ディスプレイ並に解像度が高い。他に HDD の NAS サーバー(USD3,100)をラインアップ。



Kharma 社 Exquisite Midi

オランダの HiFi オーディオメーカー。高さ 2m にもなる Exquisite シリーズのスピーカーを含め総額 1 億円ほどの、恐らく今年の Venetian Hotel で最も高価なシステムでデモ実施。最大 100W 出力あり、大出力・高音質を両立させてライブ会場のような臨場感を味わえる流石のシステム。



COMO audio 社 DUETTO/SOLO

ストリーミングスピーカー。Internet ラジオのほか、Spotify、Bluetooth(atp-X),FM, DLNA(WiFi)Google Cast に対応。ラジオを触るような感覚で手軽にデジタルストリーミングサービスが楽しめる。デザインもさることながら、音質も良い！ROLLINGSTONE 誌や CNBC などからの絶賛のコメントもボードで紹介していた。他にも類似の商品を Venetian Hotel で展示しているブランドはあったが、ストリーミングスピーカーをメインの展示にしているのはここだけで、自信に満ちた音を聴かせてくれた。



SweetVinyl

アナログレコードの復活に併せて周辺機器も盛り上がっていた。アナログプレーヤーとアンプの間に置いて使用する SugarCube を 2 機種展示。機能としては、①USB メモリへの録音、②ヘッドホン出力、③リアルタイムでのクリックノイズ・ポップノイズ除去、④USB/LAN/HDMI 入力付 DAC。上位機種では更に自動でメタデータを作成し、トラック分けも実施できる。



Kef

LS-50 ワイヤレススピーカー。元々パッシブスピーカーだったデザインをアクティブ／ワイヤレス化した商品。天面にはバックライト付きタッチキーがあり、Wifi、USB(B)接続などに対応している。流石に Phono インプットまではなかった。



Onkyo

Linux ベースの OS を使用したエントリークラスのネットワークプレーヤーと Alexa 対応 Web カメラ内蔵スピーカー、ハイレゾ対応スマホ等



Arcam

AirPlay Play-Fi 対応で Alexa のアップグレードにも対応したネットワークプレーヤー rPlay (左、\$599)と、同じケースを使用した MC/MM 対応の Phono EQ(右)。



TAD

USD12,495(ペア)の小型スピーカーME-1にてデモを実施、(ソースはアナログレコード)

サイズ感以上に分厚い低音で、非常に温かみのある良い音だった。スピーカーの側面にスリット状のバスレフポートがあり、工夫がなされている。音の完成度はピカイチ！



MartinLogan Ltd.

音が非常にまとまっていた。プレーン型だが、センター定位が同軸を上回る。



ウーハー部アンプ

DS-Audio

光カートリッジと専用の EQ システムを展示。デジタル音源かと思わせるようなタイトでクリアな音が印象的。なぜか、現場での最終調整に使われたと思われるアジマスメーターが見えるところに置かれていた。



光カートリッジ搭載ターンテーブル



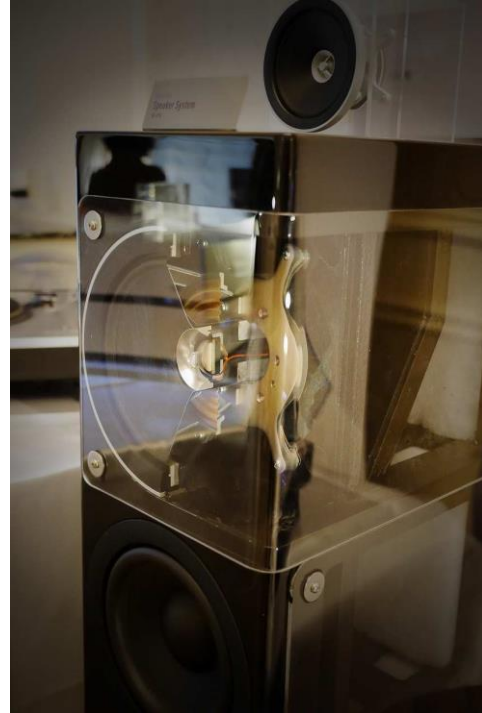
専用イコライザー

Technics

新商品を含む新生 Technics の全ラインアップを展示。やはり、ターンテーブル SL-1200GR の注目が高かった。



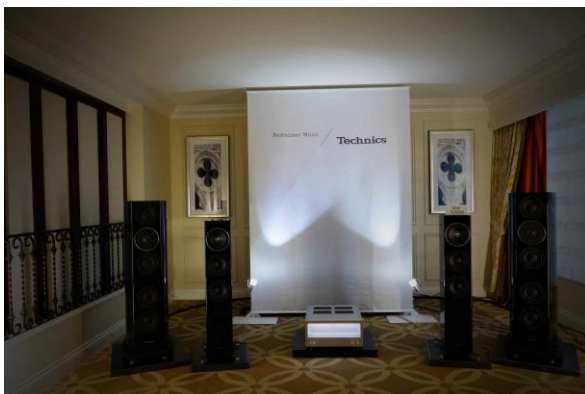
SL-1200GR



SB-G90 カットモデル



SU-G700



メインの試聴システム



後姿の女性は毎年聴きに来てくださる
JAS ではお馴染みの Lyn Stanley さん

■筆者プロフィール



春井 正徳（はるい まさのり）

1960 年生まれ。1983 年京都大学卒。同年松下電器産業株式会社（現パナソニック株式会社）入社。CD プレーヤ用 IC、1 ビット DAC、デジタルオーディオ信号処理の開発に従事。現在は AVC 機器の製品環境法令担当。趣味はウルトラマラソン。